

平成25年度入試【3年次編入学】

【小論文】

(法文学部 法経学科)

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は2ページである。解答用紙は1枚、下書き用紙は2枚である。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙、下書き用紙は持ち帰ること。

【問題】 以下の新聞記事をよく読んで、設問に答えなさい。

日産自動車は主力拠点の九州で地理的に近い韓国や中国からの調達を増やしている。日産車体九州（福岡県苅田町）で生産し6月に販売を始めた「NV350キャラバン」は部品の4割をアジアなど海外から入れた。

「円高の影響を相殺するあらゆる活動を進める」（日産の田川丈二執行役員）。国内生産の8割が輸出のマツダも、国内工場の海外部品の調達比率を現状の2割から2014年に3割に引き上げる。

完成車メーカーの動きに部品メーカーも対応している。樹脂部品のニフコは韓国の自社拠点で生産した内装用の留め具（ファスナー）を中国地方や九州の自動車メーカーに供給し始めた。三桜工業も今年度中に燃料配管用の樹脂製チューブを中国拠点や外注先から輸入する予定だ。取引先からのコスト削減の要請に応える。

12年1～6月の国内自動車生産台数は約525万台。上半期で直近のピークだった08年1～6月の約606万台と比べると13%少ない。一方で、自動車部品の輸入量は、財務省が今の形で公表を始めて以来、上半期で最大だった08年1～6月を3%上回った。

特に中国からの輸入は08年1～6月比で40%増。現地製部品の品質が向上しており、韓国も経済連携協定などで輸出産業として育成している。

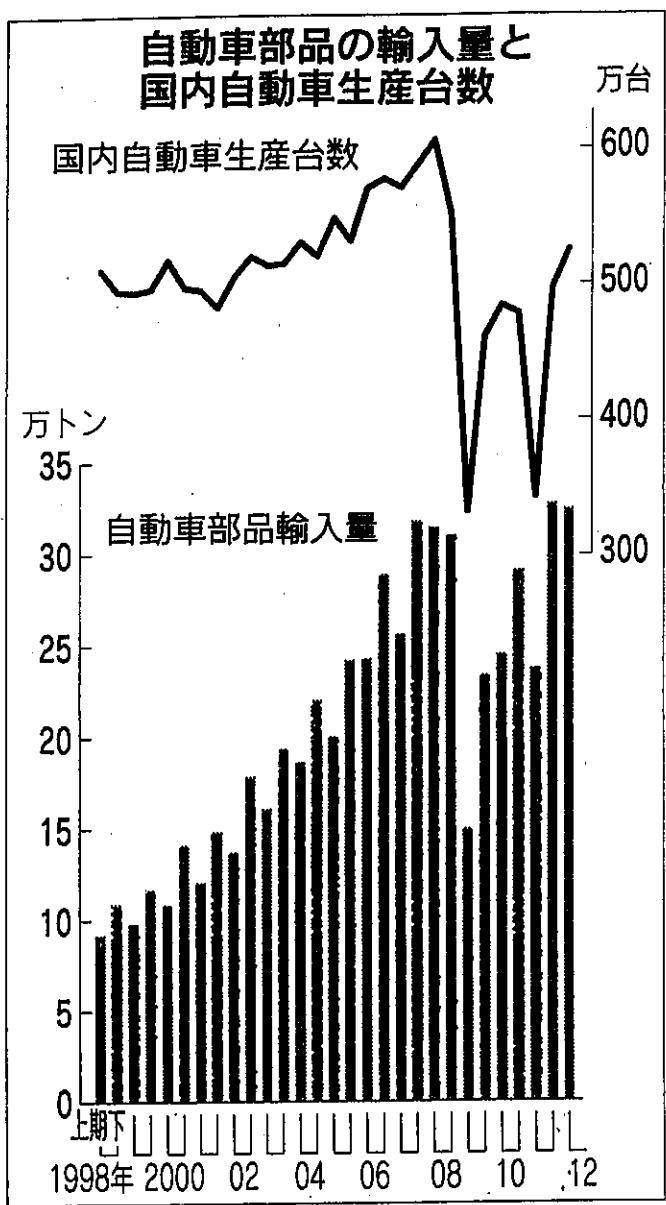
付加価値の高い部品で輸入の動きが広がっている可能性もある。ニッセイ基礎研究所が財務省の輸入価格指数と白銀の輸入物価指数を調べたところ、自動車部品は12年6月まで6ヶ月連続で価格の伸びが物価の伸びを上回った。高額品が増えていることを反映しているという。

部品の輸入が増えるのは「日本メーカーが国際競争力を高めようとする努力の結果」（A・T・カーニーの川原英司パートナー）もある。

自動車大手は開発・生産のノウハウを残し、雇用を確保するため、国内生産台数を維持しようとしている。国内販売は縮小傾向にあるため、生産台数を保つには一定の規模で輸出を続けなければならない。足元の円高水準では輸出の採算は厳しく、コストの安い海外部品が不可欠。生産台数の維持を目指すほど、部品は海外流出が進むという危うさが潜む。

貿易収支への影響は当面は軽微といえる。12年1～6月の自動車部品の輸入額は約2600億円で、輸入額全体の0・8%。ドイツからの輸入が増えている自動車も約4100億円と全体の1・2%にすぎない。

ただ自動車部品の輸出は全体の5・0%、自動車は14・7%を占めるけん引役だ。自動車メーカーが円高などを理由に国内からの部品調達を絞る傾向を続け、国内の部品産業が打撃を受ける事態に陥れば、日本全体の輸出競争力の低下につながる懸念はある。



(2012年8月13日付日本経済新聞を一部改変)

問1 記事の内容を200字以内で要約しなさい。

問2 記事が問題としている事実について、あなたはどのような対策が必要だと考えますか。理由を明示して、300字以内で述べなさい。

問3 問2で述べた対策の実現にあたって、どのような課題が生じると考えられますか。理由を明示して、300字以内で述べなさい。